

## 對西伯利政策

對露政策ニ關シテハ曩ニ廟議ノ決セルモノアリト雖露國ノ政情ハ未タ定マラス適ク英佛兩國ノ露國援助ヲ消極主義トナスノ舉アリ更ニ近時「オムスク」軍ノ敗退ニ伴ヒ遂ニ該政府ノ東行ヲ餘儀ナカラシメ延テ極東三州ニ於ケル各種ノ政治運動ヲ惹起シ西伯利政局ノ安定ヲ得ルノ時期尚遼遠ナルノ觀アルニ當リ深ク根本ヲ究メテ對策ヲ講セサルヘカラサルニ至レリ

### 對西伯利政策ノ要綱

極東露領三州ヲ以テ自治的一政治地域ト爲シ露國政府ニ對シテ特種ノ地位ヲ保持セシメ露

本國ノ勢力ニ對スル緩衝地域トナスヲ要ス之カ爲秩序ノ  
回復スルニ至ル迄米支兩國ト堅ク提携シテ依  
然所要ノ兵力ヲ駐屯シ露國軍隊ヲ支持シテ  
穩健ナル政治的中心勢力ヲ擁護援助シ且  
其ノ施政ヲ指導シ特ニ經濟的施設ニ關シテハ  
全然排他的主義ヲ避ク最モ密接ニ米支  
兩國ト協同シ大ニ自他ノ利益ヲ増進セシム

### 說明

#### 第一 對過激派政策ト日本

露國ニ於ケル過激派政府ノ樹立ハ列強ヲ震駭  
レ之ヲ四周ヨリ壓迫レテ其ノ勢力ノ凋落ヲ期  
シ帝國モ亦此ノ主義ニ基キ「オムスク」政府ヲ

支持シテ今日ニ至レリ之レ同派ノ政策カ根本的ニ  
世界ノ平和ヲ維持スル所以ニアラサルニ依ルモノニ  
シテ敢テ露人ニ對シ舊怨アルニアラサルナリ若シ  
過激派ニシテ其ノ政策ヲ變更シ其ノ色彩ヲ緩和  
スルニ於テハ之ト融合シテ露國ノ復興ヲ策スルハ  
何等不可アルヲ見サルナリ傳フル所ニ依ルハ「レニ  
一派ノ過激的政策ハ遂ニ民心ヲ收攬スルニ足  
ラス漸ク總健ナル色彩ヲ加ヘツツアリト又同派政  
府ハ四圍ノ壓迫ニ堪フルコト能ハス和議ヲ欲スル  
ノ意切ナルモノアリト之レ元ヨリ輕々ニ信スル能ハ  
サル所ナリト雖或ハ眞ニ近カルヘキヲ信セサルヲ得  
ス縱ヒ一時ノ訛傳ニ過キストスルモ將來之ヲ實

現スルコト遠キニアラサルヘシ果シテ然ランニハ寧マ  
機ヲ見テ進テ同派ヲ指導シ其ノ政策ヲ改善セン  
メ且反過激派分子ヲ緩和シ兩者融合シテ以テ  
速ニ露國ノ秩序ヲ回復シ民衆ノ疾苦ヲ救濟  
セサルヘカラス英佛諸國ハ既ニ國內ノ事情上對過  
激派政策ヲ變更セントスルノ狀アリ米國ハ元ヨリ  
同派ヲ嫌惡スルノ念ナキヲ以テ對過激派政策ニ  
考慮ヲ加ヘ徒ラニ之ヲ壓迫唾棄スルコトナク彼  
カ其ノ態度ヲ變更セサルヲ得サルノ機ヲ捉ヘテ反  
過激派分子トノ近接ヲ策スルハ機宜ノ處置タル  
ヲ信セスンハアラス斯クノ如クシテ以テ西伯利地方ノ  
擾亂ハ先ツ其ノ根本ヲ肅清スルヲ得ニ加之

0099

該地方ノ所謂過激派ト稱スルモノハ色彩多  
様ニシテ嚴格ナル政見ヲ把持スルニアラスシテ  
附加雷同スルニ過キサルモノ尠カラサルカ如ク又草  
賊ト其ノ類ヲ同フシ只管衣食ノ料ヲ得ルニ汲マ  
タルニ過キサルモノアルカ如シ此ノ如キモノニ對シテハ之  
ヲ緩和指導スルコトハ比較的困難ナラサルヘシ即  
チ英、米、佛、支ノ諸國ト共ニ先ツ對過激派政策  
ニ考慮ヲ加ヘ若シ英佛ニシテ之ヲ肯セサルニ於テハ  
須ラク米、支兩國ト協同シ帝國ト特種ノ關係ヲ有  
スル西伯利地方ニ於テ之ヲ試ミ進テ之ヲ歐露ニ  
及ホスノ端緒ヲラシメサルヘカラス然リト雖極東  
ニ於ケル現在ノ狀態ニ於テハ今直ニ之ヲ實施ス

0100

スルハ眞ニ恐ルヘキ過激派團體ノ勃興ヲ來ス  
所以ナルヲ以テ差向從來ノ主義ヲ繼續シテ  
時機ノ至ルヲ俟ツヲ要ス

今ヤ歐洲ノ戰禍漸ク收マリ平和成ルニ方リ獨  
リ露國ノ事態ノミ世界不安ノ因ヲ爲スハ誠ニ  
遺憾ナリト謂フヘシ宜シク其ノ根原ニ溯リテ救  
濟ノ道ヲ講セサルヘカラス

## 第二 我對露政策ト極東露領

露國ノ東亞經路ハ西伯利鐵道ノ建設ト共ニ  
其ノ基礎ヲ強固ニシ帝國カ明治二十七八年戰  
役ノ結果獲得シタル遼東半島ハ三國ノ干涉  
ニ依リシカ放棄ヲ餘儀ナカラシメ反テ露國ヲ

シテ滿洲ヲ併吞セシムルノ端ヲ開キ次テ東清鐵  
道敷設權ノ獲得旅大租借トナリ進テ韓半島  
ニ於ケル勢力ノ勃興ヲ來シ義和團ノ變アルニ及  
テハ遂ニ大兵ヲ滿洲ニ駐屯セシメテ東亞侵略ノ羽翼  
既ニ成リ三十七八年ノ戰役ハ幸ニ帝國ノ勝利ニ歸  
シ露國ノ勢力ヲ南滿地方ヨリ驅逐シ得タリト雖  
爾來西國ノ勢力ハ滿洲ニ於テ相接觸シ屢ニ紛  
争ノ因ヲ為スニ至ルノ虞アリ之カ爲密ニ議ヲ定  
ムルコト數次漸ク彼我均衡ヲ保チテ今次ノ大戰  
ニ至レリ此間帝國カ露國ノ壓迫ヲ蒙リタルコト實ニ  
約三十年我國運ノ發展ヲ妨ケタルコトノ多大ナルハ  
吾人ノ牢記シテ忘ルヘカラサル所ナリ

適ニ歐洲ノ一角ニ發生セル變亂ハ世界ノ大戰ヲ誘  
起シ露國モ亦之ニ參加シテ健闘努メタリト雖征  
戰久フシテ人心漸ク變化シ建國三百年世界ノ雄  
國トシテ歐洲ニ覇ヲ唱ヘタル露國ハ一朝ニシテ解  
體シ又昔日ノ觀ヲ止メサルニ至リ延テ極東ニ於ケル  
威力モ亦茲ニ頓挫シ多年帝國ノ蒙リタル侵迫ハ  
今ヤ之ヲ一掃セラレタルハ誠ニ今昔ノ感ニ堪ヘサル  
モノアリト謂フヘシ然リト雖露國ハ滅フルモ其ノ國  
民ハ長ヘニ亡ヒス將來ニ於ケル復興期シテ俟ツヘ  
キナリ之ニ於テカ吾人ハ露國ノ復興ヲ援助シ善  
隣ノ關係ヲ保持スル共ニ對策ヲ定メサルカス既往鑑ミ將來  
ヲ警フルニ露國ノ復興ハ部分的ニ勢力ヲ確立シ



テ全露ノ大ヲ爲スヘク其ノ國是トシテハ全然平和主義ノモノタラシメサルヘカラス之レ何人モ異議ヲ唱フル所ニアラサルヘシ即チ此ノ機會ニ於テ直接我國ノ勢力ト相接觸スル極東露領ニ於テハ露國ニ對スル地理的及經濟的關係ニ顧ミ茲ニ自治的政治地域トシテノ素質ヲ發達セシメ全露國政府ノ管下ニ在ルモ尚特殊ノ地位ヲ保持セシメ以テ露國復興ノ源泉タラシムルト共ニ帝國ト露國間ノ緩衝地域タラシムルヲ要ス之ヲ歐露方面ノ例ニ徵スルニ一九一八年三月獨露講和ト共ニ獨逸ハ其ノ勢力ヲ露國ニ進展セシメント欲シ兵ヲ「エストニア」「レットニア」「ウクライナ」「ドン」ノ諸地方ニ進メタルモ西

0104

方戰場ニ於ケル大敗ニ伴ヒ「ウクライナ」及「ドニ」地  
方ノ軍隊ハ期セスシテ潰走シ「エストニア」、「レットニア」地  
方ニ於テモ亦協商國ノ壓迫ニ遭ヒ其ノ歴史的關係  
ヲ放棄シテ兵ヲ撤シ歐露ニ對スル伸手ノ道亦一時  
杜絶スルニ至レルカ如シト雖獨逸カ大戰前ニ扶植シ  
タル勢力ハ今尚跡ヲ絶々サルノミナラス彼カ西方ニ  
於ケル損失ハ之ヲ東方ニ求ムルノ外ナキ關係上裏  
面ニ於テ依然東方ニ手足ヲ伸サンコトヲ期スヘキヤ明  
ナリ茲ニ於テカ吾人ハ將來露獨ノ接近ト共ニ復  
興セル露國ノ勢力カ極東ヲ脅威スルニ至ルコト  
アルヲ豫期セサルヘカラス又英佛西國ハ獨露ノ近接  
ヲ喜ハサルト露國カ再ヒ復興シテ歐洲諸國ヲ脅

威スヘキヲ憂ヒ獨軍ノ露國撤退ニ伴ヒ芬蘭及波  
蘭ヲ獨立セシメ「エストニア」「レットニア」「リシアニア」ノ  
自治ヲ承認シ又「ウクライナ」「高加索」諸地方ヲ支援シ  
テ露國ノ西境及南境ニ堅固ナル障壁ヲ築キテ  
緩衝地域ヲラシメントスルハ英佛カ表面ニ於テ露國  
ノ復興ヲ標榜スルト共ニ裏面ニ於テ露國ノ將來  
ニ備ヘ露獨ノ離間ヲ策スルノ明證ニシテ吾人ノ  
特ニ注目セサルヘカラサル要點ナリ  
極東三州ハ人民ノ數多カラサルモ土地廣大ニシテ  
其ノ經濟的利害ハ必スシモ歐露中心部ト歐  
露邊境地方トノ如ク密ナラス民族ハ「ブリヤート」  
其ノ他二三ノ土著民ノ外單一ノ露人ニシテ芬蘭

6

0106

「エストニヤ」、「リスアニヤ」等ノ如ク民族的特殊地域  
ヲ爲サスト雖各地方ニ勢力ヲ有スル「ユガツク」ハ  
夙ニ自治制度ノ慣習ヲ有スルコト五十年ヲ越  
ヘ産業經濟ノ關係ハ一獨立國タルノ素質ヲ  
有セスト雖自然ノ地理的限界タル貝加爾湖ト太  
平洋ニ對シ有スル門戸トヲ併セテ一特種地方トシ  
テ認ムルノ價値アルノミナラス帝國トノ經濟  
的關係ハ滿蒙地方ト共ニ有無相通スル共存  
的素質ヲ有スルモノナリ然リ而シテ全西伯利モ  
亦歐露ニ對シテ一政治地域タラシムルノ議ナキ  
ニアラサルモ斯クノ如キハ地域過大ニシテ政治的  
團結容易ナラス之ヲ支持援助スルハ到底言

フヘクシテ行フヘカラヤルコトニ属ス加之極東三  
州ハ地理的、經濟的關係上西伯利ノ根基タル  
ト共ニ帝國ニ對シ特種ノ關係ヲ有スルニ顧ミ先  
ツ貝加爾湖以東ヲ以テ一限界ト爲スヲ要ス而シ  
テ之ヲ自治的、政治地域トシテ發達セシムルハ英  
佛諸國カ「エストニヤ」其ノ他ノ地方ニ於ケルカ如ク  
容易ナラスト雖之ヲ帝國ノ將來ニ鑑ムルトキハ若  
干ノ人爲的、手段ヲ加ヘテ之カ發達ヲ圖リ露國ノ  
一特種地方トシテ米支兩國ト共ニ之ヲ支持援  
助シ歐露ニ對スル障壁タラシメサルヘ  
カラス

極東三州ヲ自治的、政治地域トシテ發達セシムル

コトハ支那國ニ在リテハ帝國ト均シク歐露ニ對ス  
ル緩衝地域タルノ利益アリト雖或ハ帝國カ野  
望ヲ遂行スルノ階梯ヲナスモノナリトノ疑惑ヲ懷  
クコトアルヘク米國及露國ニ於テモ亦之ヲ嫉視シ  
爲ニ成效困難ナルノ惧ナキニアラス然レトモ帝  
國カ極東露領ニ於テ何等領土の野心ヲ包藏  
スルコトナリ一意米支兩國ト共ニ經濟的發展ヲ  
圖リテ露國ト共ニ慶福ニ浴シ現下西伯利ニ於テ  
勃興シツツアル自治的政治思想ヲ助長シテ民  
心ノ輿望ニ副ヒ速ニ極東露領ノ政治組織ヲ完  
備シテ之ニ適合セシムルニ於テハ根本ニ於テ米支兩  
國人ノ政治觀念ニ合一セル自治的政治制度ノ發

0109

達ハ敢テ困難ニアラサルヘク自然ノ間遂ニ露本國  
ニ對スル特種地域トナルニ至ルヘシ

### 第三 我對支政策ト極東露領

歐洲ノ大戰ハ世界列強ノ對支經營ヲ一時頓  
挫セシメタルモ今ヤ其ノ終熄ト共ニ内政ヲ整理シ  
漸ク捲土重來ノ端ヲ開キツツアルハ方今支那ニ  
於ケル列強ノ現状ナリ惟ミルニ歐米諸國カ支那  
ニ於ケル經濟的優逸ナル素因ヲ有スルモノアルニ  
拘ラス帝國カ能ク支那政府ニ對シテ勢力ヲ有  
スル所以ノモノハ一ニ帝國カ山東地方ト共ニ滿蒙  
地方ニ於テ牢固タル勢力ヲ扶植セル結果ニ外ナ  
ラス然リ而シテ支那ノ南北抗爭ハ今尚融合ノ曙

光ヲ認ムル能ハス或ハ一時妥協合一ヲ見ルコトアルヘシト雖將來再ヒ之ヲ反覆スヘク逐次國力ヲ消耗シテ危機ニ迫ラントスルニ當リ之ヲ支持シテ其ノ存立ヲ確保スルハ滿蒙ニ於ケル帝國ノ勢力ニ俟ツヘキノミ萬一分割ノ悲運ヲ見ントスルカ如キ場合ニ於テ帝國カ之ニ對スル基礎モ亦滿蒙地方ニ求メサルヘカラス即チ我對支政策ノ根據ハ滿蒙ニ在ルヲ知ルニ足ルヘシ之レ嘗テ對支新借款團ノ提議ニ對シ滿蒙ノ除外ヲ要望セル所以ナリ

極東露領ハ地理的經濟的關係ニ於テ滿蒙地方ト共ニ一帯タルノ性質ヲ有シ兩者不可分ノ地

0111



位ニ在リ蓋シ浦潮及大連ハ此等各地方ノ經濟的門口ナリト雖若シ將來濱黑鐵道ニシテ完成センカ極東露領及滿蒙ノ門口ハ一ニ大連ニ歸著セシムルヲ得レハナリ之ヲ以テ滿蒙ニ於ケル我勢力ヲ安固ナラシメント欲セハ必スヤ北滿及極東露領ニ經濟的發展ヲ希圖セサルヘカラス而シテ露國ノ東方經路カ我滿蒙ノ發展ヲ阻害スルヤ久シ今ヤ其ノ解體混亂ト共ニ漸ク制縛ヲ脱スルノ時機ニ方リ支那ハ進テ自ラ之ニ代ラントスルノ形勢アリ若シ之ヲ自然ノ成行ニ放任センカ天與ノ好機ヲ逸シテ再ヒ之ヲ捕捉スルコト能ハサルヘシ加之西伯利及北滿ニ於ケル米國ノ勢力ハ鐵道幹線ノ把

9

0112

握ト共ニ大ニ其ノ基礎ヲ深フシ支米西國ノ對日  
策ノ一致ハ恐ラク西國共同シテ北方ヨリ我南滿ニ  
於ケル勢力ヲ驅逐スルノ端ヲ開キ我對支政策ノ  
根本ヲ覆滅シ守ヲ拱シテ支那ニ於ケル列強ノ跳  
梁ヲ黙視セサルヲ得サルニ至ラン須ラク帝國カ極  
東露領ニ於テ經濟的發達ヲ圖ルハ滿蒙ニ於ケル我  
利益ヲ擁護シ對支政策ノ根基ヲ培養ス  
ル所以ナルヲ想ヒ對露政策ノ遂行ニ伴ヒ今ニ  
於テ之ニ處スルノ道ヲ講セサルヘカラス  
東洋ノ現勢ニ鑑ムルニ帝國カ支那ニ於テ獨リ  
排他的野望ヲ遂行セントスルハ徒ニ他ノ嫉視ヲ  
受ケ盤根錯節之ヲ芟除スルニ苦ミ遂ニ孤立

無援ノ窮境ニ陷ルニ過キサルヘシ之ヲ以テ帝國ハ  
既得ノ利益ヲ擁護シ國防上經濟上必須ノ  
策案ヲ遂行スルト共ニ須ラク公正ナル態度ヲ  
持シ列強殊ニ米國ト共ニ經濟的發展ヲ策  
シテ其ノ慶福ヲ領ツノ決意アルヲ要ス之レ我  
カ勢力ヲ増進シテ窮極優逸ノ地步ヲ占ムル  
所以ナリ

#### 第四 東洋ニ於ケル帝國ノ經濟的發展

##### ト極東露領

帝國內地ノ人口ハ今ヤ約六千萬ヲ算シ逐年  
ノ増加ハ約九十萬ニ達ス近時食料ノ不足ハ著  
シク國民生活ノ基礎ヲ脅シ耕地ノ増加耕作

法ノ改善ハ到底此ノ事態ヲ緩和スルニ足ラス  
必スヤ廣ク海外ニ人民ノ移殖ヲ行ハサルヘカラサ  
ルハ敢テ贅スルヲ要セス然ルニ臺灣ニ在リテ  
ハ殆ント收容ノ餘地ナク朝鮮ニ於テモ亦自  
體ノ人口増加率ヲ顧慮スルトキハ遠カラスシ  
テ人口ノ過剰ニ苦シムニ至ラン是ニ於テ我經  
濟的發展ハ之ヲ支那及西伯利ニ求メサルヘカ  
ラス而シテ中支南支ノ諸地方ハ人口既ニ夥多  
ニシテ英米諸國ノ勢力既ニ扶植セラレアル  
ヲ以テ其ノ最モ容易ナルハ滿蒙及西伯利就  
中極東露領ナリトス  
極東露領ニ於テハ富源ノ埋藏セララルモノ甚

タ多ク沃野到ル處ニ横ハレリト雖開發尚淺  
 ヲ人煙稀薄殊ニ工業カノ乏シキ末夕施設  
 ノ見ルヘキモノナシ今試ニ極東三州ノ人口ヲ  
 每一方里ニ平均スルトキハ左ノ如シ

後貝加爾州	九十二萬	每方里一三七
黑龍州	三十三萬	同 一六
沿海州	六十四萬	同 一四

計 百八十九萬

以テ如何ニ文化普及カラスシテ人口移住ノ餘  
 地多大ナルヤヲ知ルニ足ラン更ニ各種産業  
 ノ状態ヲ概観シテ參考ニ資セント  
 ス

農産、農産ノ種類ハ小麦大麦燕麦等

ニシテ後貝加爾及黒龍ノ二州ハ共ニ自

州住民ニ供給スルニ足り沿海州ハ需要

ノ半ヲ充シ得ルニ過キス而シテ耕作適地

面積ト既墾地面積トヲ比較スレ

ハ

後貝加爾州 農耕地 七百九十二万町歩 既墾地 四百七十三万町歩

黒龍州 同 二千二百万町歩 同 五百七十七万町歩

沿海州 同 三千四十七万町歩 同 三百五十二万町歩

即チ既墾地ハ農耕適地ノ九分一乃至二

分一ニ過キス以テ開墾餘力ノ大ナルヲ知

ルニ足ルヘシ

畜産、黒龍及沿海ノ二州ハ農耕適地多クシテ畜産ノ發達佳良ナラサルモ後貝加爾州ニ至リテハ不可耕地最モ多ク畜産ノ發達最モ容易ニシテ將來有望ナル事業タルヘシ

林産、森産ハ北氷洋ニ近クニ從ヒ漸次密度ヲ減スルモ中部一帶以南ニ連至セルモノニアリテハ殆ント際涯ヲ知ラス面積四億四千方町歩ト稱セラレ主トシテ樺、新羅松等ヲ産シ其ノ大部ハ古來未タ斧鉞ヲ加ハス前途多望ノ事業ナリト謂フヘシ

鑛業、西伯利ノ利源中最モ有望ナルハ鑛業

0118

ニシテ後貝加爾州「アルグン」河谷「ネルケン  
スク」山系ノ各種鑛物、黒龍州「ゼヤ」河谷  
ノ金、沿海州ノ石炭樺太ニ於ケル重油ヲ以テ  
主要トシ其ノ年産額金ノ如キハ六千四百  
貫ト稱セラル而シテ交通機關ノ不備ト工  
藝技術ノ幼稚、資本ノ缺乏ニ依リ其ノ開  
發遲クトシテ進マス幾多ノ富源ハ空シ  
ク地下ニ埋没シ在ルハ誠ニ惜ムヘキ  
ナリ

水産、漁業ハ東沿岸ニ於テ殷盛ヲ極メ就  
中勘察加沿岸ハ世界ノ三大漁場トシテ  
有名ナルハ周知ノ事實ナリ魚族ハ鮭、鱒、鱒



等ニシテ年産額三千八百萬貫ヲ算ス亦以  
テ其ノ一斑ヲ察スルニ足ラン

東部西伯利ニ於テ各種事業ノ有望ナルコト既  
述ノ如シ然ルニ邦人ノ進テ之ヲ經營スルモノ多  
カラサルハ該地方ノ實情ヲ解セサルト投資ノ  
危険ヲ顧慮スルト内地ニ於ケル事業ノ好況  
ナルト多年ノ因習ハ海外發展ノ意氣ヲ消磨  
セシムルトニ依ルモノナリ宜シク邦人ノ放資ヲ  
獎勵保護シ天與ノ好市場ヲ逸シテ諸外國  
ノ後ニ踵若タラサルコトニ努メサルヘカラス  
唯風土著シク異ナル地方ニ邦人ヲ移スノ困  
難尠カラサルヘシト雖空氣乾燥ニシテ健

康ニ適シ酷寒ニ對シテ亦之ニ應スル衣住  
ノ法整ヘルヲ以テ其ノ生活容易ナルニ顧ミ人  
口ノ増加既述ノ如ク生活難ノ壓迫愈々加ハル  
ニ於テハ必スヤ所ヲ擇ハサルニ至ラン

0121.

第五 帝國ノ國防ト極東露領

方今世界ノ大勢ト今次大戦ノ教訓トニ鑑ムルトキハ  
將來ノ國防ハ一ニ敵國ヲ豫想シテ之ニ對スル準備  
ヲ爲スヲ以テ足レリトセス而シテ戰爭ノ禍機ハ奈邊  
ニ存在スルヤヲ豫知スルコト能ハス勃然トシテ起ルヤ  
全世界ノ大亂ノ誘發シ其ノ勝敗ハ單リ銃火ノ角  
逐ニ因ルニ非スシテ躬極スル所軍需ノ缺乏ト國民  
生活資源ノ涸渴トニ存ス而シテ資源ニ乏シキ帝  
國ノ如キハ必然其ノ自給自足ノ範圍ヲ接壤地  
方ニ擴大シ之ヲ確保シ以テ其ノ缺陷ヲ補ハスニ  
ハアルヘカラス而カモ此地方ヲ獨リ中支南支地方ニ  
備セシムルコトハ情況就中海上ノ情態、支那官民ノ

趨向ニ顧ミ萬全ヲ保シ難シ須ク先ツ指テ滿蒙  
及極東露領ニ屈スヘキハ當然ノ事理ナリ極東露  
領ノ富源饒多ナルコト既述ノ如シ遠ク將來ヲ察  
シテ緩急ニ備ヘ滿蒙ト相俟テ有事ノ日我需  
用ニ應スルノ道ヲ講スルハ國家ノ存立上一日モ緩ラス  
ヘカラサル要件ナリト謂フヘシ況ンヤ極東露領ヲシ  
テ將來露國ノ東漸ニ對スル帝國ノ外壁タラシム  
ルハ滿蒙ニ特種關係ヲ有スル我國防上絶對ノ  
緊要事タルニ於テオヤ  
更ニ支那自體ニ就テ觀察スルニ同國カ其ノ北境  
ニ於テ多年露國ノ壓迫ヲ蒙リタルノ事實ハ極東  
露領ヲ以テ自治的政治地域ト爲スノ一層利益

トスル所ナルハ勿論ニシテ日支軍事協定ノ真精神ハ  
共同シテ東亞ニ於ケル外敵ノ侵略ヲ防遏スルニ在  
ルニ顧ミ帝國カ支那國ト共ニ本政策ヲ遂行スル  
ハ西者ノ國防上其ノ利益ヲ享受スヘキヲ疑ハス

### 第六 西伯利ノ統一ト極東露領

極東露領ニ對スル政治經濟及軍事上ノ關係ハ如  
上縷述スル所ニ依リテ之ヲ窺フヲ得ヘシ今ヤ尠  
大ナル西伯利ハ支離滅裂收拾至難ノ狀態ヲ呈  
シ其ノ頭腦部タル「オムスク」地方ハ過激派ノ蹂躪  
ニ委ス何ノ故ソ凡ソ物本ヲ顧ミスシテ末ニ走ル  
蓋シ危シ内ヲ治メテ外ニ對ス之レ政治ノ要諦ナリ  
「ゴルチヤツク」政府ノ樹ツヤ一ニ歐露ヲ望ムニ急ニ

シテ又西伯利ヲ顧ミルニ遑アラズ之レ失敗ヲ招ク所  
以ナリ抑西伯利地方ノ根基ハ極東ノ三州ニ在リ其  
ノ基礎ヲ安定スルコトナクシテ徒ニ沙上ニ樓閣ヲ築  
カントス同政府ノ東行ハ元ヨリ其ノ所ナリ之ヲ以テ  
帝國ハ彼カ漸ク我勢力範圍ニ近接シ支持援  
助ヲ受クルノ要ヲ一層切實ニ感得セントスルニ方リ  
宜シク米支兩國ト共ニ之ヲ指導シテ先ツ極東三  
州ニ於ケル施設ヲ改善セシメサルヘカラス之レ西伯利  
ヲ統一シ進テ露國ノ復興ヲ大成スル所以ナリ

第七 極東露領ニ於ケル我派遣軍

極東露領ニ於ケル我派遣軍ノ駐屯ニ伴フ成果  
ニ關シ其ノ主要ナルモノヲ左ニ列擧ス



軍ノ西伯利派兵トナリ帝國陸軍ハ同軍ノ主腦ト  
シテ之ヲ支援シ獨塊俘虜ヲ背景トスル過激派  
團體ヲ蹴破シテ九月下旬極東三州ヲ平定シ  
東西西伯利ノ統一ヲ完成セシメ爾後露國ノ穩  
健分子ヲ支持シテ秩序維持ニ任シタリ此間  
西伯利ニ於ケル政治團體ノ興廢ハ所在枚擧  
ニ遑アラス浦潮地方ニ於テモ次ヲ代フルコト三「コ  
ルチヤツク提督ノ就任ニ及ヒ聯合諸國ノ支援ニ  
依リ漸ク形體ヲ備ヘ基礎ヲ「オムスク」ニ定メテ  
全西伯利ノ統一成ルニ至レリ然レトモ其ノ威力ハ  
尚極東ニ及ハス僅ニ我軍ノ駐屯ニ依リテ平靜  
ヲ保ツニ過キス過激派ノ陰謀騷擾ハ常ニ其ノ



跡ヲ絶タス最近「オムスク」軍ノ敗退ニ伴ヒ同政府ノ  
東行ヲ促シ加フルニ西伯利ニ於ケル英佛諸國ノ  
援助動揺スルヤ各種ノ政治運動ヲ惹起シ同政  
府ノ運命累卵ノ危ニ瀕ス今ニシテ我軍カ一度西  
伯利地方ヨリ撤退センカ再ヒ往年ノ擾亂ヲ惹  
起シ滔々トシテ過激派團體ノ横行ヲ見ルヘク其  
ノ勢力ハ滿洲ニ入り支那全土ニ波及シ朝鮮ヲ侵  
襲シ帝國內地モ亦之カ禍害ヲ蒙リ東洋諸  
邦ハ擧テ擾亂ノ巷トナルニ至ラン誠ニ極東露  
領ノ秩序維持ハ獨リ露國ノ援助ニ止マラス帝  
國自衛ノ必要ニ出ツルモノト謂フヘキナリ今ヤ歐  
露ノ過激派カ漸ク其ノ態度ヲ改メントスルノ時機  
ク

0128

遠カラサルニ方リ一朝ニシテ西伯利ニ於ケル彼ノ勢  
カヲ復浩セシムルハ惜ミテモ尚餘リアリト謂ハサ  
ルヲ得ス

凡ソ一國ノ對外政策ハ事情之ヲ許ス範圍ニ於  
テハ須ク人道的見地ニ基ク所ナカルヘカラス之レ近  
時世界ニ表現シタル新事實ナリ抑我西伯利ノ  
派兵ハ「チエックスローヴ」軍ノ救援ニ存シ同  
軍救援ノ事終ルヤ自然ノ間西伯利地方ノ秩  
序維持ニ任シタルハ共ニ人道的見地ニ基クモノア  
リト謂フヘシ現時極東露領地方ノ所謂過激  
派ト稱スルモノ色彩多様ニシテ衣食ニ窮セル草  
賊ト撰フ所ナキモノ亦尠カラス良民爲ニ寢食ヲ

0129

安ニスル能ハス唯帝國軍ノ威力ニ依リテ辛クフンテ  
一日ノ安ヲ得ルニ過キス萬一我軍ノ撤退ヲ見方  
其ノ狀態知ルヘキノミ彼等カ我軍ニ對スル深  
厚ナル信賴ハ直ニ變シテ其ノ無情冷酷ヲ高  
唱スルニ至ラン之レ派兵當初ノ大主義ニ對シ果  
シテ忍ヒ能フヘキ事實ナリヤ

西伯利鐵道ノ保護、西伯利鐵道監督ノ問題ハ  
日米間ニ於テ長時日ニ互レル懸案ニシテ昨年末  
漸ク之ヲ解決シ帝國ハ東支鐵道南線、烏蘇  
利鐵道、黑龍鐵道ヲ負擔シ軍隊支援ノ下ニ  
漸ク之ヲ經營ス然ルニ朝ニシテ守備兵ヲ撤セン  
カ此等諸鐵道ノ監督ハ固ヨリ之ヲ爲スニ由ナン

抑鐵道ニ勢力ヲ有スルハ當該地方ニ於ケル經濟  
的發展ノ基礎ヲナスモノニシテ未タ西伯利鐵道  
ノ幹線ニ之ヲ及ホスニ至ラスト雖亦以テ他日ノ俟  
ツノ素地タルヘキナリ是ニ於テカ鐵道監督ノ放  
棄ハ則テ西伯利ニ於ケル我勢力ヲ失墜スルニ至  
ルヘキノミナラス之カ爲外交上背信ノ批難ヲ受ケ  
大國ノ面目ヲ傷クルコト甚シト謂フヘシ

露軍ノ建設、禍亂ヲ戡定シテ國家ヲ樹立スルモ  
ノ先ツ軍隊ノ建設ヲ以テ急務トス今ヤ極東露  
領ニ於テ我軍ノ支持援助ニ依リ成立セル露軍  
ハ約二萬ニ達スト雖草創ノ際其ノ素質良好ナ  
ラス訓練至ラス警備討伐ノ事ニ從フト雖我軍

ノ驥尾ニ附シ漸ク其ノ勢力ヲ保ツニ過キス若シ  
我軍ノ後援ヲ失ハンカ恐ク瓦解離散ノ運命ニ  
遭遇スヘク極東露領ノ秩序維持成ルハ百年  
河清ヲ待ツカ如シ

我居留民ノ保護、綱紀紊亂草賊横行ノ地ニ  
在リテ我居留民カ安シテ業務ニ従事シ在ルハ  
一ニ我軍ノ保護ニ依ルモノナリ知人ノ西伯利ニ於  
ケル發展ハ未タ大ニ見ルヘキモノナシト雖既ニ極東  
露領ニ於テ人口増加ノ形勢ヲ示セルハ之ヲ該地  
方ノ政情ニ想到スルトキハ蓋シ望外ノ事實ナリ  
ト謂フヘシ今主要地ニ於ケル一般ノ状態ヲ示セハ  
左ノ如シ

ク

0010

0132

地名	大正七年調	大正八年調
浦潮	三、六〇〇	七、八〇〇
ハバロフスク	五七〇	六二〇
ブラゴエスケエンスク	〃	三四〇
知多	二〇〇	三七〇
イルクーツク	四〇	七〇
满洲里	〃	四三〇
齊々哈爾	〃	一六〇
哈爾濱	五、〇〇〇	六、〇〇〇

若シ夫レ邦人ノ企業ニ至リテハ既ニ經營ニ着手  
 セルモノ甚カラス企畫ノ途ニ在ルモノヲ算セハ其  
 ノ數約三十、烏蘇里、黒龍、後貝加爾及樺太

各地ニ跨リ鐵道、水運、電燈、電車、水道、炭田、油田、森林、鑛山等ノ各種事業ニ互リ漸ク經濟的發展ノ曙光ヲ認メントス就中我資本ハ既ニ黑龍江ノ運輸業ニ投下セラレ近時資本家合同シテ黑龍及烏蘇里三州ノ鑛山及森林事業ノ經營鐵道ノ新設樺太ニ於ケル油田ノ開發ニ著手スルノ舉アルヲ耳ニシ曩ニ派遣セラレタル専門技術家ノ報告ニ徵スルモ有利好望ノ事業タルコトヲ知ル誠ニ邦家ノ爲慶賀スヘキ現象ニアラスヤ

露民ノ救濟、露民ノ救濟事業ハ未タ徹底的ニ之ヲ行フニ至ラサルモ從來機ニ應シテ實行セル

20

0134

モノハ主トシテ醫療救濟、細民救恤等ナリトス  
浦潮派遣軍ハ露國人民ニ對シ醫療ノ救濟ヲ  
行フノ切要ナルヲ認メ守備勤務ノ餘暇其ノ  
衛生部員ヲシテ可能ノ範圍ニ於テ之ヲ行ヒタ  
リシカ八年二月西伯利經濟援助委員會ノ委  
嘱ヲ受ケ稍組織的ニ之ヲ實行シタルニ窮民  
蝟集シテ診療ヲ請フモノ甚々多ク受診ノ患者  
毎月八千ヲ超ヘ入院患者亦數百ニ達シ深ク  
我醫術ニ信賴シ兩國人民ノ親善ニ資スル所  
頗ル大ナリス我赤十字社ハ數救護班ヲ派遣シ  
テ主要地ニ開設シ診療ニ從事シ患者總數  
約一萬ニ達シ其ノ成績見ルヘキモノアリ

0135



細民ノ救恤ニ關シテモ亦派遣軍。於テ顧慮スル所アリ就中鐵道従業員及討伐地方ニ於ケル住民ニ對シテ行ヒタルモノ前後數回金額約四十萬ニ達シ恩威並ヒ行ヒ深ク住民ノ信賴ヲ博スルニ至レリ

### 第八 我陸軍ノ西伯利撤退

以上各節ニ於テ論述セル所ヲ綜合スルニ帝國ハ極東露領ニ對シテハ對露政策上之ノ自治的政治地域トシテ露本國ニ對スル緩衝地域タラシムルヲ必要トシ滿蒙ト共ニ之ヲ將來ニ於ケル我經濟的發展ノ地域タラシメ而シテ有事ノ日絶對ニ我資源トシテ將々外圍トシテ之ヲ利用セサルヘカラス之ニ對シ豫メ

21

素地ヲ作リテ他日ニ備フルノ手段ハ甚カラサルヘキモ  
當面ノ急務ハ破壞混亂セル秩序ヲ回復スルニ  
アルハ實狀ヲ知ル者ノ等シク感知スル所ナリ之ヲ  
以テ成ルヘク速ニ所要ノ露國軍隊ヲ編成シテ之  
ヲ支持シ其ノ成ルニ至ルニアラサレハ撤兵ヲ望ムコト  
能ハス 翻テ考フルニ我派遣軍ノ秩序維持ハ即チ  
過激派團體ノ勢力ヲ限局スル所以ニシテ一度之ヲ  
緩フセンカ 忽チ其ノ勢力ヲ東亞ニ蔓延セシメテ  
收拾スヘカラサルニ至ラン 最近支那國大統領除世  
昌親近者ヲ介シテ我政府ニ謝シテ曰ク人心浮動  
禍機既ニ熟スルノ秋能ク大局ヲ安定シテ事無キ  
ヲ得ルハ一ニ日本軍ノ西伯利駐屯ノ結果ニ外ナラ

吾人ハ日本國軍ノ努力ニ感謝スルト共ニ切實ニ  
日支軍事協定確守ノ要ヲ信セスンハアラスト又以  
テ其ノ影響スル所ノ大ナルヲ知ルニ足ラン加之我軍  
ノ撤退ハ現時極東露領ニ於ケル邦人ノ經濟的諸  
事業ハ擧テ之ヲ放棄セシメサルヘカラス帝國カ西  
伯利ニ派兵スルコト僅カニ一年有半我利益漸ク  
大ナラントシテ俄ニ之ヲ撤セントス誠ニ千載ノ功ノ一實  
ニ缺クモノト謂フヘシ又現時帝國カ北滿地方ニ駐兵  
シ東支鐵道沿線ニ於テ支那國軍ト相並行シ能  
ク我利益ヲ保護シツツアルハ極東露領各地方  
ノ派兵ト因縁ス余若シ該地方ヨリ撤兵センカ北  
滿ノ駐兵ハ元ヨリ之ヲ望ムヘカラス之ニ代フルニ支那國

軍隊ヲ以テシ我南滿ノ利益ハ遂ニ伸フルノ時機  
ナカルヘシ凡ソ物止マレハ退クヘシ西伯利ニ於ケル我  
利益ノ減退ハ延テ之ヲ滿蒙ニ及シ朝鮮ニ波及  
シ茲ニ鮮人ノ事大思想ト投合シ其ノ固有ノ政治  
的野心ヲ煽動シ憂慮スヘキ事態ヲ醸スヤ必  
セリ既往ヲ顧ルニ我西伯利派兵前沿海州地方  
ノ不逞鮮人ハ密ニ獨塊俘虏ト相通シテ事ヲ起ヤ  
ントシ民族自決ノ聲揚ルヤ更ニ米人ニ依倚シテ  
騷擾ヲ惹起ス以テ鑑戒ト爲スニ足ル朝鮮總  
督西伯利派兵ニ就テ述テ曰ク我軍若シ西伯利  
ヨリ撤退センカ予ハ朝鮮統治ノ安全ヲ保證スルコ  
ト能ハサルヘシト深ク其ノ根元ヲ察シテ禍亂ノ因ヲ

遠キニ阻止スルニアラサレハ或ハ恐ル帝國内モ亦不測ノ  
災厄ヲ蒙ルニ至ランコトヲ

西伯利撤兵ノ結果上述ノ如シ果シテ然ラハ帝國陸  
軍カ艱苦ヲ忍ヒ缺乏ニ堪ヘ出沒極リナキ過激派  
ト戦ヒ朔北ノ荒野ニ駐屯スルハ國家將來ノ大策ヲ  
遂行スル所以ニシテ派兵以來命ヲ殞スモノ約一千  
財ヲ費スコト約二億ニ達ス此等ノ犠牲ハ我軍ノ  
撤退ト共ニ全然徒爾ニ屬セントスルハ遺憾ナリト  
謂ハサルヲ得ス

近時西伯利ノ政局ニ顧ミ我軍ノ撤退ヲ論スルモ  
ノナキニアラス今其ノ利害得失ヲ措テ問ハサルモ  
其ノ實行可能ナリヤ否ヤハ須ク軍事的見地ニ基

キ慎重ニ顧慮スルノ要アリ曩ニ沿黒二州ニ駐屯セ  
ル我第十二師團ノ部隊ヲ内地ニ歸還セシメントスル  
ヤ漸ク屏熄シタル過激派團體ハ俄然トシテ烽  
起シ鐵道ヲ破壊シ電線ヲ切斷シ交通杜塞  
シテ一時輸送ヲ中止セサルヘカラサルニ至レルコトアリ然  
ルニ現時同派ノ勢力ヲ増大セルニ方リ守備ヲ撤  
シテ軍ヲ旋サンカ過激派ヲシテ之ヲ以テ自己ノ勝  
利トナシ皇軍ノ敗退ヲ信セシムルモノニシテ恐ク沿道  
各地ニ於テ同派ノ妨害ニ遭遇シ遂ニ進退ニ窮シ  
國軍ノ威信ヲ損傷シ益々過激派勢力ノ横暴  
ヲ來スハ瞭然タリ之ヲ以テ撤退ヲ決行セント欲  
スルモ更ニ多數ノ兵力ヲ増加シテ所要ノ打撃ヲ

與へ收容ノ方法ヲ講スルニアラサレ、實行至難ナル  
コトヲ省慮セサルヘカラス加之西伯利ニ駐屯シ在ル  
チエツクノ軍及波蘭軍等ハ淹留既ニ久シク之カ歸  
還ハ列國ノ商議ニ係リ帝國モ亦參與シテ之ヲ  
解決セサルヘカラサル地位ニ在リ若シ我軍ニシテ  
彼等ニ先ンシテ撤退シ極東露領ノ擾亂ヲ惹  
起センカチエツクノ軍等ノ歸還ハ元ヨリ之ヲ望ム  
コト能ハサルノミナラス窮餘ノ結果彼等ハ反テ  
過激派ト迎合シ遂ニ極東露領ニ勢力ヲ扶  
植シテ年耳ヲ執ルノ奇觀ヲ呈スルニ至ラン

第九 我對西伯利政策ノ遂行

我對西伯利政策ハ極東露領三州ヲ以テ自治

的政治地域トシ露本國ニ對スル緩衝地域トナスニ在ル  
ハ反覆詳論シタル所ナリ而シテ之ヲ遂行スルノ道  
ハ政治的中心勢力ノ擁護、指導、政治組織ノ  
完備、物質的援助、邦人ノ經濟的事業ノ保  
護獎勵ニ存シ之カ爲先ツ秩序ヲ回復シテ交  
通ヲ確保スルヲ急務トシ軍隊ノ駐屯、行政機關  
ノ活躍及物資財力ノ提供ハ共ニ之カ保證タルヘ  
シ而シテ駐屯セシムヘキ我兵力ハ守備地域ノ廣袤  
及過激派ノ勢力ニ鑑ミ秩序ヲ維持シ交通ヲ  
確保スルニ足ルヲ以テ標準トシ將來同派ノ大  
兵ヲ以テ侵寇スルニアラサレハ現時ニ於テハ三師團ヲ  
以テ辛クシテ支持シ得ヘク一面ニ於テハ需品ヲ供



給シテ露軍ヲ建設シ之ヲ指導監督シテ守備ヲ  
負擔セシメサルヘカラス又物資及財力ノ提供ニ至リテ  
ハ際限ナキカ如シト雖需用ノ緩急列強ノ趨向及  
我財政ノ状態ニ顧ミテ適宜其ノ度ヲ定メ秩序ノ  
回復ト共ニ露人自ラ努メテ之ヲ充スノ用意ニ出テ  
シムルヲ要ス

今列國ノ西伯利ニ對スル態度ノ觀察シテ帝國ノ  
將來ヲ慮ルニ英佛諸國ハ國內ノ情勢止ムヲ得  
サルモノアリ為ニ其ノ政策ヲ變更シテ西伯利撤兵  
ノ形勢アルハ根本政策ノ更改ニアラスシテ該地方ノ  
治亂興亡カ其ノ本國ノ安危ニ關セサルニ依ルモノト  
解セサルヲ得ス之レ歐露西境ニ於ケル施設ニ何等

變化ヲ來ササルニ徴シ明カナリトス茲ニ於テカ帝國  
ハ直接重大ナル利害關係ヲ有スル米支西國ト堅  
ク協調ヲ保テ政策ノ遂行ニ努メサルヘカラス抑米  
國ノ政策ハ夙ニ西伯利鐵道ヲ把握經營シ物質  
的援助ヲ行ヒテ露國ノ救濟スルニ在リタルモ今  
ヤ現下ノ事態ハ之ヲ實行スル緊急手段トシテ秩  
序ヲ回復シ交通ヲ確保スルヲ要シ且コルチヤツ  
ク政府東行ノ暁ニ於テハ先ツ極東露領ノ事  
態ヲ改善セサルヘカラサルコトヲ首肯スルナラン之レ  
帝國ノ政策ト一致スルニ至レルモノナリ又對過激派問  
題ニ於テハ帝國カ同派ノ政策護和ニ伴ヒ之カ對  
策ヲ顧慮シ而カモ帝國カ利權ヲ獨占シテ他ヲ

排除スルノ態度ニ出ツルコトナク誠意兩國協同シテ  
富源ノ開發ニ努力シテ自他ヲ利スルニ著意セ  
ンニハ日米間ノ協調ハ之ヲ期待シ得ヘキコトヲ  
確信スルヲ得ヘシ須ク米國政策ノ存スル所ヲ酌  
量シ徒ニ他ヲ顧ミサルノ妄斷ヲ避ケ両者ノ協力  
一致ヲ求メサルハカラス之レ現下ニ處スルノ道ナリ  
トス又支那ニ至リテハ北滿ノ勢力恢復ニ汲々トシ  
往々帝國ノ野心ヲ猜スルノ傾ナキニアラス之ニ對  
シテハ我國モ亦政治的勢力ノ扶植ニ腐心スルコ  
トナク寧ロ支那ヲ扶掖指導シ相互協同シテ經  
濟的利益ノ増進ヲ圖ルノ誠意ヲ披瀝セサルヘ  
カラス若シ夫レ極東露領ニ於テ自治的政治地域

ヲ設クルハ政治、外交、經濟、軍事各般ノ方面ヨリ  
之ヲ觀察スルモ悉ク支那國ノ利益タルコト疑フヘカ  
ラサルヲ以テ彼等ノ疑惑心ヲ去テ協同ノ實ヲ示ス  
ニ於テハ兩國ノ提携難カラサルヘシ茲ニ於テカ曰  
米支三國ハ相共ニ和衷シテ西伯利ニ臨ミ露國ノ  
復興ニ貢獻スルト共ニ其ノ富源ヲ開發シ廣ク其  
ノ慶澤ヲ享受スルニ於テハ地理的經濟的關係  
ニ於テ優越ナル地位ニ在ル帝國ハ期セスシテ其  
ノ政策ヲ遂行シ得ルニ至ラン  
最近米國技師一行ノ西伯利鐵道監督意ノ如ク  
ナラサルヤ遂ニ之カ放棄ヲ口ニスルニ至レリ其ノ真  
意ハ素ヨリ豫測スル能ハスト雖將來或ハ之カ

0147

實現ヲ見ルコトナキヲ保ス能ハス此ノ場合ニ於テ  
帝國ノ對西伯利政策ヲ如何ニスヘキヤハ慎重  
ニ顧慮スルヲ要ス抑往年西伯利派兵ノ議ア  
ルヤ帝國政府ハ特種ノ利害關係アルニ顧ミ單  
獨西伯利問題ヲ解決センコトヲ期待セルハ吾  
人ノ記憶ニ新ナル所ナリ縱ヒ時經過シ形勢變  
化アリト雖我西伯利政策ハ米國ノ尙背ヲ以テ  
更改スヘキニアラス若シ止ムヲ得ス同國ノ協力ヲ得  
ル能ハサルニ於テハ支那國ト固ク提携ヲシテ事ニ當ル  
ヲ要ス今日支西國ヲ以テスル場合ヲ考フルニ秩序  
維持ニ要スル兵力ハ縱ヒ米軍ノ撤退ヲ見ルモ實  
際上殆ント上下スル所ナク支那國軍ハ其ノ對北滿

27

政策上依然トシテ東支鐵道ノ保護ニ任スヘキヤ  
明カナルヲ以テ米國政策ノ變化ニ伴ヒ帝國カ更  
ニ多大ノ派兵ヲ要スルコトナカルヘシ鐵道監督ニ  
對シテハ帝國ヨリ東支鐵道及後貝加爾鐵道ニ  
要スル若干ノ人員ヲ増派スルコトハ素ヨリ可能事  
ナルヘシ唯物資及財力ノ提供ニ關シテハ稍、負擔  
ヲ増加スヘシト雖米國ノ極東露領ニ於ケル救濟  
ノ聲大ナルニ比シテ實質ノ之ニ伴ハサリシニ顧ミ帝  
國カ代テ之ヲ負擔スルコトハ敢テ難事トスヘカラス  
翻テ考フルニ西伯利ノ擾亂止ムノ日尚甚ク遠キ  
ニ於テハ我派兵モ亦際限ナカルヘキヲ省  
察スルノ要アリ極東露領ノ秩序回復ハ何ト雖豫測ス

ル能ハサルモ其ノ對手タル過激派ノ政策カ軟化ノ變調  
ヲ示シ帝國モ亦之ニ應シテ反過激派勢力ヲ指  
導スルノ策案ヲ有センニハ既ニ其ノ根本ヲ解決  
シ得ルノ望ヲ有スト稱スヘク此ノ間帝國カ支持援  
助セル露國軍隊ヲ監督精練シ更ニ其ノ數ヲ増  
加シテ地方ノ守備ヲ之ニ委任シ若干ノ要地ヲ占  
守シテ減兵スルハ遠キニアラサルヲ期待シ得ヘシ  
斯クノ如クシテ遂ニ我利益ヲ保證スルニ足ルヘキ  
若干ノ兵力ヲ残置シ爾餘ノ大部ハ之ヲ撤退ス  
ルヲ得ン然リ而シテ此ノ間必要トスル經費ハ些少  
ナラサルヘキモ三師團一箇年間ノ維持ニ要スルモノハ  
約金壹億圓ニシテ帝國ノ負擔ニ堪ユヘカラスト

スヘカラス又露國ノ援助ニ要スルモノハ極東露領ニ  
於ケル政治的中心勢力ヲ擁護シテ渝ルナクンハ  
他日ニ於テ之ヲ回收スルコト難キニアラス派兵以來  
之カ爲支出シタル額ハ露軍ノ援助及西伯利鐵  
道援助ヲ合シ約一千五百萬圓ニシテ將來一層  
之ヲ増加スルモノトスルモ露軍ノ援助ニ要スル軍  
需品ノ供給ハ總テ有償トシ或ハ期ヲ限リテ返  
濟セシメ或ハ擔保ヲ提供シテ之ヲ保證セシム  
ルヲ得ヘシ現ニ十月「オムスク」政府ニ供給ヲ約  
シタル軍需品約千八百萬圓ノ内既ニ代金ヲ受  
領シ若ハ其ノ見込ノモノ金約六百萬圓ニ達シ支  
拂ノ目途確實ナリトス又鐵道援助資金ニ在リ

0151



テハ之ヲ自國購買主義ニ依リ使用セハ得失ナキ  
ヲ得ヘシ之ヲ要スルニ露國ノ援助ハ其ノ實行ヲ適  
確有效ニシ確實ニ政治的中心勢力ヲ支持スルニ  
於テハ縱ヒ其ノ額多キニ上ルモ之ヲ回收スルコト憂  
フルニ足ラサルモ不徹底ナル援助ト不確實ナル支持  
ヲ以テ投下シタル資金ハ何等ノ效果ヲ見ルコトナクシ  
テ路傍ニ委棄スルノ危険ヲ伴フモノナリ即チ萬止ムコトヲ  
得ズシテ帝國カ單獨ヲ以テ事ニ當ル場合ニ於テモ軍隊  
ノ駐屯及露國援助ニ伴フ負擔ハ敢テ我財政經  
濟ヲ動揺セシムルカ如キ虞ナキノミナラス一層適  
確ナル援助ハ更ニ大ナル效果ヲ齎スヘキヲ信スヘキ  
ナリ

是ニ由テ之ヲ觀レハ帝國ハ須ク虚心坦懷米支  
兩國ト密接ニ協同シ其ノ利益ヲ尊重シ永久  
ニ美果ヲ收ムルノ決意ヲ以テ之ニ臨ミ萬一米國  
ノ脫退ヲ見ルニ當リテハ支那國ニ對シ隔意ナキ  
諒解ヲ求メ之ヲ扶掖提携シ日支軍事協定ノ  
效果ヲ發揮シ誠意相互ノ利益ヲ増進スルコト  
ヲ努ムルニ於テハ希クハ遂ニ帝國ノ政策ヲ遂行ス  
ルヲ得ン

0153

極秘

供

軍令部

舟枝手渡し

（参考）

第一課長

海軍

軍務局

第二課長

局員

陸軍省

軍務局 吉賀少佐宛電誌（九一七一六）

要領

小林

閣議決定ノ次第浦潮派遣軍一電刺セシ處

今軍司令官ヨリ左記要旨ノ回答アリ

軍ニ在り西伯利兵力配備ヲ変更シハハロフスルニ

有カテ部隊ヲ置キアラゴエニモ亦相当有カ部隊

ヲ配シ中間ニハ配備セサルトス

耕

右軍司令官ヨリ田電本文後ヨリ送ルモ不取扱

如クシテ... 西伯利至撤是ヨリ... 別ヨリ...

抄

（明正印刷納）